

投資事業評価調書(新規)

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 河南 嘉彦 (高瀬 陽太郎)	内線	4 3 6 2 (4 3 7 8)
------	-------------------	---------------------	----------------------	----	------------------------

事業種目	道 路	事業名 (主)宮津八鹿線(出石新大橋) 県単独事業	事業区間 出石町弘原～室見台 L = 4 2 0 m	総事業費	約 9 . 6 億円 (うち用地補償費 3.1 億円)
------	-----	---------------------------------	----------------------------------	------	-----------------------------------

所在地	着工予定年度	完成予定年度
出石郡出石町弘原～室見台	H 1 6 年度	H 2 1 年度

事業目的	事業内容等
<p>本路線は、但馬地域の生活・観光・産業を支える主要地方道であるが、出石町中心部への道路は歩道が未整備である一方で観光車両が町内中心部に多数流入することにより、交通渋滞を引き起こし、歩行者にとって危険な状態にある。</p> <p>また、出石川左岸にある(国)426号と(主)宮津八鹿線の交差点付近には町の健康福祉ゾーンが設置されているが、右岸市街地を結ぶ道路が未整備である。</p> <p>このため町中心部の交通渋滞解消と健康福祉ゾーンから町中心部へのアクセス道路の整備が課題となっており、その解消に向けバイパスの整備を行う。</p>	<p>バイパス L = 420m (うち橋梁部 L = 123m 3 径間連続鋼鈹桁橋)</p> <p>現況：W=6.0(6.8)m：2車線 計画：W=6.0(12.5)m：2車線+片側自歩道3m (橋梁部は全幅11.0m)</p> <p>交通量(台/日)：現況 5,021、計画 5,400</p>

評価視点	評価内容
(1)必要性 安全・安心を確保する道づくり くらしと交流を支える道づくり 地域ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・本路線は緊急輸送路であり、主要地方道としての耐震性能が不十分な堀川橋・大橋(昭和12年架橋)の代替路線として早期整備を行い防災面の強化を図る。 ・町中心部から福祉ゾーンへの歩道を整備し、安全で安心できる歩行空間を確保する。 ・阪神方面から建設中の北近畿豊岡自動車道を通して訪れる観光客のアクセス道路として整備を行うことにより、地域の振興と活性化が期待できる。 ・出石新大橋架橋促進期成同盟会及び町議会、地元住民から早期整備の要望がある。 ・出石町振興計画に整備計画が位置づけられている。
(2)有効性・効率性 有効性 代替性 効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・バイパスの整備により町中心部への大型観光バスの乗り入れを抑制し、町内の安全性向上、渋滞解消、快適な環境の創生が可能となり、また観光客の町内散策の機会が増え、観光交流空間としての魅力ある町の活性化が期待できる。 <li style="padding-left: 20px;">費用便益比(B/C) = 1.9 ・周辺の道路網及び歴史的町並み、地形的要因を考慮すると現道拡幅は困難であり、国道426号との交差点から延伸して対岸に渡る計画が最適である。 ・円滑な事業実施に向け既に用地取得の面で地元の協力体制が整っている。
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・通過交通がバイパスに転換することにより、現道沿い集落の生活環境の改善が図られる。 ・橋梁本体は高耐久塗装を採用することで塗装の塗り替え周期が延びることとなり環境保全に寄与する。 ・道路法面には周辺植生に配慮した緑化を図る。
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・土工区間へは他事業からの公共残土の受け入れが可能であり、平成16年度着手がコスト縮減の観点から有効である。